

試験日 : 2024年9月7日

入試種別 : 大学院(修士課程)

学部・研究科: 農学研究科

科目名 : 専門科目

解答又は解答例

大問1

英語科目における個々の英単語訳出は、辞書持ち込み可であるため、大学院入試レベル相当の訳出ができることを評価の基準とする。

問1

以下の点に着目して評価を行う。

【Field studies reveal ~という英語特有の表現の訳出】

正答例「野外研究によって～が明らかとなった」

【a potent greenhouse gas が、直前の methane の付随説明であることの訳出】

正答例「強力な温室効果ガスであるメタン」

問2

①

【動詞～ing 型の、動名詞や現在分詞としての機能を理解しての訳出】

下線部(1)では、動詞の～ing 型が、動名詞として文章の主語や述語として機能する例や、現在分詞として形容詞的な働きをしている例が混在しているが、それらを正しく理解して、日本語として適切に訳出する

【It is the most A after B の正しい訳出】

正答例「それは B の次に最も A である」主語 It と B の順序関係の把握

【下線部全体を通しての論調の正しい訳出】

英語特有の表現が頻発する段落だが、時事問題を扱う科学ニュース記事として、文章ないで述べられている「重要性」や「課題」などの論理を正しく伝えることができるよう訳出する。

②

【slow and difficult の理由の正しい読み取り】

文章を読むと、出題範囲中では主に下三行部分はその理由に該当すると判断できるが、その内容を正しく訳出する。

大問2 問題群1

問1

以下の点に着目して評価を行う。

- ・生物農薬の定義を正しく理解し、微生物、天敵、フェロモン剤など、具体的な種類を挙げて説明できているか。
- ・生物農薬の特性を踏まえ、残留性、安全性、環境への負荷など点での長所、効果の即効性や安定性、保存性などの点での短所を正しく理解し、明確に記述できているか。

問2

- ①植物ホルモンの一つで、細胞伸長、種子休眠打破、茎の徒長、花芽形成などを促進する。農業生産では開花促進や果実肥大などの生育調節に広く利用される。
- ②受粉がなくても子房が発達して果実ができる現象で、トマト・ナスなど単為結果性品種でみられ、種なし果実が形成されるため栽培の安定化に利用される。
- ③抗原が体内に侵入した際に産生され、特異的に抗原に結合してそれを除去または無力化するタンパク質であり、この原理はELISAなどの病原体診断にも利用されている。
- ④国外から季節風や台風などの気流に乗って日本へ飛来する害虫で、トビイロウンカやセジロウンカが代表例であり、水稻での大量発生や薬剤抵抗性が問題となっている。
- ⑤互いに利益を得ながら共存する生物間関係のことで、マメ科植物と根粒菌では、植物が糖を与える代わりに根粒菌が窒素固定でアンモニア態窒素を供給する典型例として知られている。

大問2 問題群2

問1

以下の点に着目して評価を行う。

- ・「みどりの食料システム戦略」の背景や目的、政策の内容が正しく説明されているか。
- ・自分の関心や専門性に基づいた独自の考察が行えているか。
- ・主張の根拠が明確に示されており、分かりやすい論理展開となっているか。

問2

- ①国内生産を基盤に輸入・備蓄を組み合わせ、災害や国際リスクにも対応しながら、良質な食料を合理的な価格で国民に安定供給する体制を確保すること。
- ②生産規模の拡大に伴い、単位あたりの生産コストが減少し、効率性が向上していく現象のこと。
- ③取引の当事者間で、一方の側が他方の側よりも多い情報、または質の高い情報を持っている状態のこと。効率的な市場を阻害する要因となる。
- ④その地域ならではの自然的・人文的・社会的な要因の中で育まれてきた品質や社会的評価の特性などを有する製品の名称を、地域の知的財産として保護する制度。
- ⑤地域で生産された農林水産物を地域内で消費し、輸送による環境負荷低減や食料自給率向上、地域経済活性化を図る取組。

大問2 問題群3

問1

以下の点に着目して評価を行う。

- ・調理に用いられるゲル化材料を3つ挙げられているか。
- ・3つのゲル化材料の原料、主成分について示されているか。
- ・3つにゲル化材料における、溶解温度、ゲル化の条件（ゲル化温度・濃度など）が示されているか。

問2

- ①職場で業務を行いながら、上司や先輩などから指導を受ける教育方法のこと。実務に直結した実行を伴う教育法である。
- ②3種類以上の試料を与え、刺激強度や好ましさなどの特性の大きさについて、大きいものから順番に順位をつけてもらう方法である。
- ③腸内の特定の細菌の増殖あるいは活性を選択的に変化させるなど、健康に有益な機能を持つ難消化性の食品成分のことである。
- ④40歳～74歳の者（被保険者および被扶養者）を対象として実施されている、メタボリックシンドロームに着目した健診および保健指導である。
- ⑤入院中に介入する医療行為や食事提供、療養などについて、時間軸に沿って取りまとめた治療計画のことである。

以上